

## 第2回 匝瑳の魅力ある海岸づくり会議の結果概要

日時 平成24年9月16日(日)

午後2時00分～4時00分

場所 野栄総合支所2階学習室

参加者 別紙

配布資料 会議次第

座席表

委員名簿

会議傍聴要領

匝瑳の魅力ある海岸づくり会議規約

南九十九里浜養浜計画

資料—1 第1回匝瑳の魅力ある海岸づくり会議の結果概要

資料—2 野手海岸の歴史と文化【話題提供：A委員】

漂砂の枯渇による海岸の人工化【話題提供：副会長】

資料—3 九十九里浜北部の現状

資料—4 今まで実施した海岸保全施設の効果

資料—5 将来予測

資料—6 侵食対策の優先順位

資料—7 今後のスケジュールについて

### 【議事内容】

#### 1. 開会

事務局から以下の点について確認した。

- ・ 傍聴における注意の説明
- ・ 配布資料の確認(資料1～7、パンフレット)
- ・ 委員の出欠状況

吉崎区長 五鬼田委員の代理出席として伊藤委員が出席

海の家さくま 宇井野(辰)委員の代理出席として宇井野(ミツオ)委員が出席

海の家ことぶき 大木(一)委員、長谷区長 宇野委員、川辺第三区長 小川(巖)委員、栢田

第三区長 大木(雅)委員は欠席

#### 2. 委員紹介

事務局から委員の方々の紹介を行った。

#### 3. 挨拶

匝瑳市太田市長から挨拶

- ・ 区長に限らず、委員の皆様からは意見を頂戴したい。
- ・ 匝瑳市における魅力ある海岸づくりのための施策等について委員の皆様で話し合っていたきたい。

- ・ 第1回の会議同様に委員の皆様からは、一言でも良いので発言、意見を頂戴したい。
- ・ 委員の意見を基に、専門家のアドバイスも頂きつつ、県と連携して匝瑳の魅力ある海岸づくりを進めていきたい。
- ・ 本日の会議の開催にあたって尽力いただいた先生方・千葉県の皆様には、感謝している。

#### 県土整備部河川整備課高澤課長から挨拶

- ・ 市長からも話のあったとおり、野手海岸をはじめ九十九里浜は侵食が激しいことから昨年からの会議が行われている。
- ・ 第1回の会議では津波についての話もあり、現在は2m防護高さをあげるという話があった。今年から事業に取り掛かっている。これについては地元住人の意見等聞きながら進めていきたいと思っている。
- ・ 本日の話は侵食の話で、侵食対策の中で利用環境をどのように守っていくかについて、委員の皆様から意見を頂き、海岸整備を進めて行こうと考えている。

#### 4. 第1回匝瑳の魅力ある海岸づくり会議の結果概要

事務局から第1回匝瑳の魅力ある海岸づくり会議の結果の概要を説明した(資料1)

- ・ 平成23年12月10日に行われた。出席委員は22名、傍聴者は3名。
- ・ 東北地方太平洋沖地震による津波について、九十九里浜の侵食の状況に続き、考えられる対策について協議が進められた。
- ・ 次回の会議では、シミュレーション結果を含めた内容での協議や、A委員から海岸の文化的歴史に関する資料の説明を行うこととなった。

#### 5. 議事

会長から挨拶および会議の流れについて説明

- ・ 先ほどの現地海岸視察では、海岸の砂浜がほとんどない状態であった。特に新川付近ではまったく砂浜がなく、そのまま放置すると防風林・防砂林、民有地にまで被害が及ぶような状況であり、非常に深刻であった。
- ・ 委員の方々には、本気で県に陳情して頂きたいと思う。
- ・ まず、匝瑳市の過去の歴史・気候風土・植栽や海を通じた活動について、A委員から話を頂く。
- ・ 次に、侵食をどのように防ぐか？対策はどのようなものか？今後の匝瑳の海岸、特に野手海岸をどのようにするかについてのヒントを副会長から話を頂く。
- ・ その後委員の皆様から要望・意見をいただきたい。

##### (1) 野手海岸の歴史と文化【話題提供:A委員】

野手海岸の歴史と文化についてA委員から説明した(資料2)

- ・ 栢田浜および堀川浜海水浴場の利用状況を当時の写真を使って紹介した。
- ・ 海の利用のされ方について、お神輿、サーフィン、獅子舞を例に紹介した。
- ・ まつり暦からたくさんのお祭りが匝瑳市で行われてきたことを紹介した。
- ・ 重要文化財と海の深い関係について紹介した。

## (2) 漂砂の枯渇による海岸の人工化【話題提供: 副会長】

北九十九里の現状から今までに至った経緯について、副会長から説明した。(資料 2)

- ・ 屏風ヶ浦の崖侵食を防止したことで侵食が起こったことを再確認した。
- ・ 現状の写真をもとに、侵食問題の深刻さについて説明した。

### 【意見・質問】

(会長)

- ・ 二人からお話があったように、このまま何もしなければ、砂浜が消えていく非常に厳しい状況である。対策の技術的な部分は県土整備部が考えるが、委員の皆様から要望をうかがいたい。

(B 委員)

- ・ 祭は地元の人が詳しいと思う。気になったのは、飯岡漁港ができた時期と漁船の数が減ってきた時期が同じではないかということである。結果として、漁船の数が減り、漁業から離れていった人は行商に流れていく。水産問屋は、海岸の無くなる間に栄えている。このような変化影響が地元に与える影響は大きいのではないかと？

(A 委員)

- ・ それは大事なことと思う。

(C 委員)

- ・ 屏風ヶ浦の砂が供給されなくなったのが、一番の問題なのではないか。屏風ヶ浦から昔は砂が供給されていた。しかし今は流れてこない。関係者のご協力により1~12号ヘッドランド(以下、HL とする)が建設されているが未完成である。HL を建設しても効果は、ないと思う。最も効果のある対策案は離岸堤である。HL の両脇では砂が溜まっているが、その中央部は侵食される。
- ・ また、昔から貝(チョウセンハマグリ)の保存のために、海岸線沿いをパトロールしているが、現在、侵食が激しいので車が走れない。ハマグリをどうしたら守れるか？維持できるのか？その辺についても考えてほしい。
- ・ 先ほどの説明は参考になった。会長、副会長には感謝する。

(会長)

- ・ 長年の密漁のパトロール、感謝する。他に意見はないか？

(F 委員)

- ・ 離岸堤の話が出たが、離岸堤を設置することで砂がつくのであればやってもらいたい。飯岡漁港の説明があったが、本来冬は飯岡の波は(サーフィンにとって)良いはずだが、漁港の影響なのか分からないが、うねりが入らなくなった。漁港の防波堤によって波が静かになった上に離岸堤があるため、砂が溜まったのではないかと思う。もし離岸堤を建設して砂が増えるのであればいいと思うが、かんぼの宿の前の離岸堤の背後に砂はついていない。実際にどうなのかを教えてほしい。
- ・ 一方、突堤が延びたことでサーフスポットが増えたということもある。HL では横堤があるためサ

ーフインにとってはよくないが、突堤の場合波が良くなる。実際に、野辺山や堀川浜ではサーフスポットが増えている。ただし、砂がなくなるとサーフィンが出来なくなる。海水浴のことも考えると、砂浜が増えるような方法を皆で考えられたら良いと思っている。

(B 委員)

- ・ 本須賀海岸に砂がたまっている原因は、片貝漁港があるからでしょうか？
- ・ 先ほど、副会長から粒径を変えれば砂浜が回復するかもしれないというお話があったが、それは養浜を行ったほうが良いということなのか？

(副会長)

- ・ 皆さんがどうしたいか、という要望に合わせて回答したい。粗い粒径で養浜すると砂浜が出来るが、他の工法ではだめである、という誘導は避けたい。その点を踏まえたうえで、科学的にみると、北九十九里浜から  $6 \times 10^5 \text{m}^3/\text{yr}$  の砂が消失しているという事実は変えられない。この問題を解決しない限り、離岸堤や HL を建設したとしても侵食を止めることはできない。そう考えると、毎年無くなっている砂を補充する意味でも、養浜をしっかりやることが重要である。現状では、砂は片貝漁港を超えて南に移動しているが、移動した砂は、南九十九里浜で経年的に起こっている地盤沈下によって、消失している。南北に関わらず、九十九里浜全体から生きた砂(砂浜として存在できる砂)が無くなっており、大変な状況である。

### (3) 九十九里浜北部の現状

九十九里浜北部の現状について事務局から説明した。(資料 3)

- ・ 九十九里浜北部の侵食要因と現状について事務局から詳しく説明した。
- ・ 海水浴場が閉鎖に追い込まれている現状を説明した。
- ・ 現状では、吉崎、野手海岸が非常に厳しい状態にあることを解析結果から示した。

### (4) 今まで実施した海岸保全施設の効果

今まで実施した海岸保全施設の効果について、事務局から説明した。(資料 4)

- ・ 計算上では、HL の効果は  $1.8 \text{万m}^3$  砂を留めたという結果となり、HL が無いよりもあったほうが効果的であったことを説明した。

### 【意見・質問】

(会長)

- ・ HL 工事は途中であるが、砂の流出をある程度抑制したという結果であるという説明であった。早く HL を完成するという話もあるが、年間の予算上全基の実施には時間を要する。同じ効果を求めるならば、どの地域を優先して事業を進めて行くべきなのか議論したい。
- ・ 防護だけでなく、利用や環境についても考える必要がある。その点について委員の皆様も様々な意見を持っていると思うがどうだろうか？
- ・ もしなければ、今後の方向性について副会長から意見を頂きたい。

(副会長)

- ・ 先ほど C 委員も言っていたが、HL の効果がないのではないか？という意見があったが、説明する。なぜかというと、砂がもともと細かいために、(堆砂)効果を出すためには縦堤部を沖側

に長く出さなければならぬ。しかし、九十九里浜特有の姿を無くすことに等しい。景観の面や漁業の面に悪影響を及ぼす。

- ・ 例えば、神向寺海岸では行われているように、粗めの砂を養浜することで(堆砂)効果を発揮することができる事例がある。実際に鹿島灘で行われており、技術的にも可能である。しかし、九十九里浜はもともと非常に細かい砂であり、粗い砂を入れた場合にチョウセンハマグリ等に影響がないかどうかについては、考慮する必要がある。
- ・ 会長から話があったように、野手海岸の北側では侵食が激しい状況である。このようなところで対策を行っても直ぐには効果が出るとは言いにくい。もしやるならば、数年のうちに直ぐに効果が出ると思われる野手海岸よりも南側を勧めるが、場所の選定については皆さんの意見をもとに決めるべきことである。

(会長)

- ・ 海岸整備の HL 工事の年間予算はいくらか？ 年間に何 m 伸ばせるのか？

(G 委員)

- ・ 工事費は年間 1 億 8000 万円くらいであり、年間約 30m 程度延長できる。しかし、侵食によって水深が深くなっているため、想定以上に予算がかかるかもしれない。

(会長)

- ・ 12 号について縦堤を現在整備中であるが、横堤 100m 完成までどのくらいかかるのか？

(G 委員)

- ・ 今の状態では完成までに 5 年かかる。

(副会長)

- ・ 先ほど事務局から毎年 1.3m 後退しているという話があった。5 年という約 7m 後退することになり、海岸の状態がさらに悪化し砂浜が無くなる。また、HL を建設しても砂が増えるわけではない。HL 建設と平行して養浜することは不可能なのか？

(G 委員)

- ・ 予算の関係もあるが、養浜する砂があり、漁業組合から了解が得られれば、実施は可能である。

(副会長)

- ・ 例えば、飯岡漁港であれば砂をどけないと危険であるため砂を捨てる必要がある。このように溜まり過ぎていない砂を、侵食している箇所に積極的に投入するなど、有効な砂の管理方法を考えることはできないのか？

(H 委員)

- ・ 一宮海岸では、養浜は作田川の浚渫土砂を沖合で投入している。それを踏まえると、砂を有効に利用するために沖養浜を行うことは十分可能と考えている。

(副会長)

- ・ 可能であるならば、関係者同士で砂を有効に管理するように前向きな話をして頂きたい。

## (5) 将来予測

今後の九十九里浜北部の地形変化について、シミュレーション結果をもとに事務局から説明した。

(資料 5)

- ・ 現況のまま対策を行わない場合、2030年には平均0.24m、2060年には平均0.5m地盤が低下する結果が示された。

## (6) 侵食対策の優先順位

今までの調査・解析結果をもとに、侵食対策の優先順位について事務局から説明した。(資料6)

- ・ 防護の面から考えた場合の優先順位の考え方を示し、安全度をA,B,C,Dで評価した。
- ・ 防護面だけでなく、利用面・環境面から見た場合にどのように評価をすべきかを検討したいということを説明した。

## 【意見・質問】

(会長)

- ・ 9号以南では、ある程度砂が残っている状況である。この間を優先的に実施していけばいいと思うが、全部はできないため、優先順位を決めて早急に侵食対策を行っていかればいいと思っている。
- ・ 委員の皆様には、知事、市長、県議会議員、県土整備部に陳情して頂きたい。予算が決まっている中で、どのように配分するのか？という部分については、皆様の声の大きさというのが重要である。優先的に予算をつけていくように働きかけていかなければ、砂浜がどんどん無くなっていってしまう。
- ・ 1年に1回しか会議を行わないということであると、なかなか話が進まない。市議会の方で議論を活発に行って、県議会の方に働きかけるということを緊急にやっていただきたい。
- ・ 魅力ある海岸、すなわち砂をつけること、確保することで議決をとりたいが、いかが？(賛成の拍手)

(B 委員)

- ・ 具体的な構想は、会長に賛成である。
- ・ 地元民が一番気になるのは、HL建設と養浜を同時やったとして、結果がどうなるのか？ということである。
- ・ 保全という意味には、利用や環境が本来含まれると思うが、県の説明を聞いていると環境や利用については考えていないように思える。

(A 委員)

- ・ もし本当に砂浜を取り戻したいのならば、本気にならなければならないと思う。私は三番瀬の委員会にも出ていたが、当時は三番瀬のみに県の予算の半分も費やされていた。今回、半分とまでは難しいと思うが、豊富な予算を得て、より良い海岸づくりを行うために、皆さんの声をどんどん届けてほしい。
- ・ 利用と環境についてですが、県は利用や環境についての情報は持っていない。逆に、皆さんから情報を上げてもらうことで、反映することができる。意見が無い場合は、利用や環境についての項目は白紙のままになってしまう。そういった意味でも、どんどんと意見や情報を教えてほしい。
- ・ 副会長の言っていたように、全部の砂浜を元に戻すことはできない。ある一部も戻せるかどうかは検討しているところであり、皆様と一緒に考えていくものである。

(会長)

- ・ A委員の意見について補足ですが、県では海岸法の改定に伴い、10年前に利用と環境を盛り込んだ海岸基本計画が作成された。しかし、最近の利用状況・震災後の影響などの情報がないので、地元から提供して頂きたい。

(A委員)

- ・ 10年くらい前に海岸法が改定し、住民の声等を反映させるようにはなった。このような仕組みは千葉県にしかない。しかし、要望がないと会議は開催できない。鴨川や一宮海岸など、要望のあった海岸は必ず良くなっている。

(H委員)

- ・ 県としては、防護のみを考えているわけではない。海岸の利用や環境についても十分に考慮した計画にしたい。命・財産の面から考えると防護の面が際立ってしまうが、利用と環境について、市で意見をまとめて頂き、お話して頂きたい。

(A委員)

- ・ 今日の会議の資料や情報を市役所等にお話して頂いて、様々な意見や情報の共有を進めて頂き、次回教えてほしい。

(副会長)

- ・ HLを延伸するのは、予算がかかる。また、HLが完成しても、細砂を完全に留めることはできない。そこで、漁場への影響を考慮しつつ、粗めの砂を3年計画で養浜して、皆さんでモニタリングしてみてもいいか？実現可能な議論まで持っていくために、可能性のある場所を選定して、狭い範囲でもいいので、前向きに養浜を試みたらいいのではないか？また、前向きに物事を進めるために、皆さんのバックアップが必要である。

(I委員)

- ・ 県の事業で、侵食事業と高潮対策事業で護岸の整備をしていますが、野栄では砂浜よりも陸地があることを望んでいるようなので、緩傾斜護岸の整備を進めるのが良いのではないかと？

(副会長)

- ・ 緩傾斜護岸は絶対に失敗する。九十九里全体を緩傾斜護岸で覆うことになり、砂浜は消える。また、砂浜のない場所に護岸を整備しても、再び破壊されてしまう。それでも良いならば、やるべきだが。

(H委員)

- ・ 現況の高潮対策で行っている護岸整備は、災害復旧でやむを得ず行っている。護岸だけでは、海岸を守れないことについても十分に理解している。

(副会長)

- ・ 護岸を作る⇒護岸の下手が侵食する⇒さらに下手に護岸を作る。そうやって護岸だらけになっているのが現状である。より良い海づくりができるかどうかは、どのようにしてこの悪循環を断ち切るかにかかっている。現場担当者の葛藤も十分に理解しているが、護岸整備にばかり目を向けては、本当の意味での魅力ある海づくりにはならない。

(B委員)

- ・ 「里海」には、環境問題だけでなく、地域づくりの意味もある。漁業や生活など暮らしのある人々のいる中、侵食した結果、暮らしを変えざるを得ないことが起こる。共感を得られない施策ならば、ナンセンスな施策であると言わざるを得ない。

## (7) 今後のスケジュールについて

事務局から今後のスケジュールについて説明した。(資料7)

- ・ 防護と利用、環境のバランスの取れた対策はどんなものか、副会長の提案も含めて、次回提案する。
- ・ 開催時期は検討のうえ、連絡する。

### 【意見・質問】

(F委員)

- ・ 今回の会議では、何をすべきか？についての具体的な話は何も決まらずに終わってしまった。もっと会議を頻繁にやり、皆さんの意見をまとめて、何をすべきか？を議論する場にすべきだ。
- ・ 私の意見としては、養浜は陸では堀川浜で行ってほしい。沖で養浜する場合には野手海岸が良いと考えている。

## 6. 閉会

- ・ 新たなご意見・ご提案があったら、海匠土木事務所か匝瑳市の事務局まで連絡を頂きたい。
- ・ 本日の意見を踏まえ、次回は具体的な対策案を提示したい。
- ・ 開催時期については、改めて案内する。